

⑦8 令和2年7月豪雨に伴う宿泊施設の避難所活用のための 応急補修関連事業

受賞機関 熊本県 土木部 建築住宅局 営繕課

キーワード ホテル・旅館の応急補修、建築関係団体との連携、みなし避難所

全建賞審査委員会の評価ポイント

令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた球磨地域における宿泊施設の避難所活用のための応急補修関連事業。極めて短い期間において、災害協定を締結する建築関係3団体と連携して、被害調査、応急修理、関係者調整を行い、全国で初めて民間のホテル・旅館を避難所として整備した点が評価された。

1. はじめに

令和2年7月豪雨では、熊本県の県南地域において記録的な降雨となり、球磨川流域では観測開始以来最高の雨量・水位を記録。河川の氾濫等により、65名の方が亡くなられたほか、7,300棟を超える家屋被害や国道・鉄道の橋梁が流出するなど、甚大な被害が発生した。

2. 事業の概要

令和2年7月豪雨により甚大な被害を受けた球磨地域において、被災し避難を余儀なくされている要配慮者の避難環境の改善を図るため、県内の建築関係3団体と連携し、内閣府及び国土交通省の助言を受けながら、人吉市内のホテル・旅館の被害状況調査を実施。

施設の被害状況を踏まえ、ホテル・旅館のオーナー及び関係者の意見を聴きながら、県が事業主体となりホテル・旅館の応急補修を実施し、令和2年10月より要配慮者を受け入れる避難所の一つとして利用開始することができた。コロナ禍の状況ではあったが、被災された方々が少しでも落ち着ける場所を整備することができた。



国土地理院「令和2年7月3日からの大雨による浸水想定図」を基に作成

3. 事業の成果

【被害調査】

災害協定を締結している建築関係3団体と連携し、豪

雨災害で被害が甚大であった球磨地域の人吉市内のホテル・旅館の20施設を調査。

- 調査人員：県職員（建築技術者）延べ66人
 - 熊本県建築協会 延べ24人
 - 熊本県電設業協会 延べ22人
 - 熊本県管工事組合 延べ24人

○調査支援：内閣府、国土交通省

【応急修理】

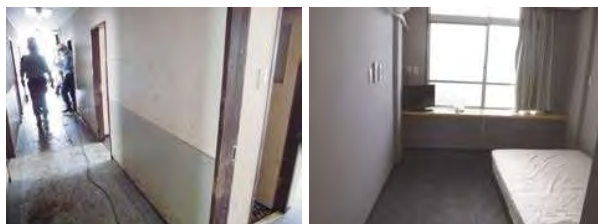
調査実施20施設のうち、キュービクルや設備等の復旧に時間を要する施設を除き、要配慮者の受入れを同意された4施設について、県事業として約1か月半の短期間で応急修理を実施し、みなし避難所として活用。

○施設数：4施設（56室）

施設名	事業費	被害
施設A	48百万円	2階床上浸水
施設B	36百万円	1階床上浸水
施設C	14百万円	1階床上浸水
施設D	7百万円	1階床上浸水

○工事期間：令和2年8月6日～令和2年9月29日
（各施設で工事期間は異なる）

○利用期間：令和2年10月1日～令和3年1月25日



2階床上1.1mまで浸水

応急修理完了の客室

4. おわりに

今回の事業実施にあたり、大きな被害を受けたにも関わらず、ホテルのオーナーの方々には積極的に御協力いただいたことに大変感謝している。また、建築関係団体の方々の協力や内閣府、国土交通省の方々の支援をいただいたことで、無事業を完了することができ、併せて感謝する。

今回の事業は無事完了することができたが、引き続き今回の豪雨で被災された方々が、将来に向かって生活再建や地域再生への歩みを進めていけるよう、県庁一丸となって取り組んでいく。